

赤十字は、戦闘に参加しない一般市民の保護を定めた国際人道法の普及を使命としており、紛争で一般市民が犠牲になっている状況を見過ごすことができません。そのため、国際人道法の尊重と遵守を全ての紛争当事者に呼びかけるとともに、紛争やその他の暴力によって住み慣れた家を追われて国内および国外で避難生活を強いられている人たちははじめ、避難民を受け入れているコミュニティなど、さまざまな状況に置かれている人々の声に耳を傾け、彼らのニーズに応えるべく、引き続き支援を行っていきます。

世界各地で苦しんでいる人たちに寄り添っている国際赤十字の活動（国際赤十字・赤新月運動）にご賛同いただき、紛争下の状況を少しでも良くするため、まずは現状を知って、そこで生きている人々の「声」を想像し、家族や友達など身近な人たちに伝えることで、現地の人々に心を寄せていただければ幸いです。

ー 日本赤十字社、赤十字国際委員会

「共生」を経営理念とするキヤノンは、世界各地で取り組む献血や教育活動など、長年にわたり赤十字を支援しています。本展においても「写真の持つ伝える力」を生かすことで、プロジェクトの認知や理解促進に貢献したいと考えています。写真は視覚メディアですが、今回展示する写真から、ご観覧いただく皆さまの心のなかに「アフリカの声」が届くのではないのでしょうか。この写真展が、アフリカの現状を知るきっかけになるとともに、国際人道法普及の一助になることを願っています。

ー キヤノン株式会社

撮影者

ナイジェリア

このプロジェクトに参加したのは、国際社会から忘れ去られ、かつ避難を強いられている人々の気持ちに寄り添いたかったから。故郷を離れ、仮住まいの状況が10年～12年も続いている。その姿をカメラに収めることが重要だと思った。

ー ニューシャ・タヴァコリアン



カメルーン

アフリカのこの地域での撮影は初めて。中東地域でISなどの過激派組織によって避難民となった人たちの話と類似点はあったが、それ以上に、カメルーンの殺伐とした風景に衝撃を受けた。

ー モイセス・サマン



チャド

長年にわたり、中東地域を中心にテロが社会にもたらす影響を追いかけてきた。しかし、チャドの生活環境は厳しく、水や食料の入手、医療サービスへのアクセスは、容易ではない。

ー ロレンツォ・メローニ



ニジェール

チャド湖周辺地域では今、1,700万人以上が紛争の影響を受けている。たとえ自国から離れていても、世界のどこかで、大規模な人道危機が起きているのは見過ごせない。現地へ赴き、何が起きているのかを理解したかったし、この現実から人々が目を背けないように、きちんと記録に残したかった。

ー エミン・オーズマン



N.Tavakolian/Magnum Photos for ICRC

世界を知る写真展  
ボイス・オブ・アフリカ

中部に位置するチャド湖周辺の4カ国。厳しい環境下で生きる人々の声

チャド湖周辺のカメルーン、チャド、ナイジェリア、ニジェールは気候変動の影響を大きく受けるほか、紛争や情勢不安により240万人が避難を強いられ、1,000万人以上が支援を必要としています。行き届いてはいません。

赤十字国際委員会（ICRC）では、こうした現状を伝えようと、2017年にマグナム・フォトの写真家4人を現地に派遣しました。





## ニジェール

首都 ニアメ  
人口 2,150万人

ナイジェリアとの国境近くの南東部ディファ州では、ナイジェリアからの避難民を多く受け入れている。半乾燥地帯のため慢性的な食料不足に悩まされているが、紛争の影響でさらに農作物の生産が難しくなり、住民や避難民の間で緊張が高まっている。



## チャド

首都 ンジャメナ  
人口 1,500万人

チャド湖周辺の住民への性暴力、そして貴重な食料であり収入源である家畜の略奪などが絶えない。また周辺国で起きている紛争の影響により、中央アフリカ共和国、スーダンからの難民、避難民の多くがチャドに流入していて、受け入れコミュニティの資源が逼迫している。

## チャド湖

## カメルーン

首都 ヤウンデ  
人口 2,400万人

北部における人道危機が深刻で、特にナイジェリアとの国境沿いやチャド湖の周辺地域には支援が行き届いていない。治安の悪化から医療サービスを受けることもままならず、コレラなど感染症の流行が懸念されている。

